

平成 26 年度実施 教員評価結果について

学 長

国立大学法人福井大学教員評価規程に基づき、平成 26 年度に実施した教員評価結果を、以下の通り公表します。

1. 評価対象

教授・准教授・講師・助教・助手の全教員

2. 評価方法

①教育活動，②研究活動，③社会貢献・国際交流活動，④管理運営活動の 4 領域（ただし，医学部に所属し診療活動に従事する教員は，診療活動を加えた 5 領域。センター等では「センターの設置目的に合致した活動」を加えた 5 領域）について，評価を実施しました。

各領域の活動状況の評価及び総合評価を，次に掲げる評点及び標語に基づき行います。

- SS 活動状況が極めて優れている
- S 活動状況が優れている
- A 活動状況が良好である
- B 活動状況が適切である
- C 活動状況に一部改善を要する
- D 活動状況に問題があり大幅な改善を要する

なお，SS 及び S に該当する者の合計数は，評価対象者の 5%を超えないものとして評価を行っています。

3. 評価結果

	評価					
	SS	S	A	B	C	D
対象教員 471 人	1.9%	3.0%	60.1%	33.5%	1.3%	0.2%

4. SS 評価該当教員

教員名：中澤 達哉	所属：教育地域科学部社会系教育講座	職：准教授
<p>当人の専門分野は西洋史であるが、とりわけ東欧近代史(特にスロヴァキア、チェコ、ハンガリー)における民族運動・国民形成・ナショナリズムに着目して研究を進めている。これらの課題は、現代のテロリズムとも共通する問題を含んでおり、興味深く、また成果が期待される場所である。特にこれらの研究成果の一つとして、平成 19 年に公表されたスロヴァキアの国民形成に関する論文は諸外国でも高く評価されている。平成 21 年には科研費補助金(研究成果公開促進費)によって著書「近代スロヴァキア国民形成思想史研究－『歴史なき民』の近代国民法人説－」を刊行したが、これも現地で高く評価され、現地での翻訳・公刊も進んでいる。それに合わせて平成 22 年にスロヴァキアの二つの国立大学から客員教授として招聘され、学部生・大学院生を対象に講義を行っている。また、平成 24 年には半年にわたって英国オクスフォード大学歴史学部附属近代ヨーロッパ史研究センターに上級客員研究員として在籍し(サバティカル制度利用)、研究活動・学会活動を積極的に行った。この成果として、平成 25 年には日・英・露・欧の歴史家による国際シンポジウムを東京で主催している。なお、平成 22～25 年の間に、東欧史に関する研究成果として、当人が編著者の著書が二冊、分担執筆の著書が二冊刊行されている。</p> <p>以上述べたように、当人は研究において極めて優れた成果を挙げている。また、その研究成果が当該分野や関連する分野において極めて重要な影響をもたらしていることから、国内のみならず国際的にも高く評価されている(その結果として平成 22～25 年度にかけて国外研究機関からの招聘や国際シンポジウムの主催が行われた)。よって、これら研究面での業績は、SS と判定した。</p>		

教員名：松木 健一	所属：大学院教育学研究科教職開発専攻	職：教授
<p>当人の教育面での業績として、本学の機能強化に繋がるような教育面での大型プロジェクトリーダーとして貢献している点があげられる。具体的には、特別経費プロジェクト「福井大学モデルによる教職専門性開発と国際共同研究ネットワークの形成」(文部科学省、平成 22～24 年度)、同「グローバル社会に必要な教師教育の革新をスピーディに実現する連携事業の推進」(文部科学省、平成 25～27 年度)の企画運営における実質的責任者として、そして教育学研究科教職開発専攻長として、同専攻(教職大学院)の学校拠点方式を中心とした教員養成ならびに教師教育に関する教育研究活動の全国展開や国際的な協力の点で顕著な成果をあげている。</p> <p>また、当人の教育面での活動は本学に留まらず、教職大学院協会理事、大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)教職大学院特別審査会委員として教職大学院の設置や発展に関わるとともに、中央教育審議会特別部会委員として国の教育政策策定にも寄与している。</p> <p>以上、評価対象期間(平成 22～25 年度)において、これら教育領域(社会貢献領域とも部分的に重複)における、多大なる貢献と成果が評価され、SS と判定した。</p>		

教員名：和田 有司	所属：医学部附属病院	職：病院長・教授
<p>附属病院長として、病院の管理運営の全般に関わり、この間増収が図られ、経営の健全化に寄与した。さらに病院再整備事業としての新病棟の建設、オープンを成し遂げ、優れた地域医療人を輩出するハイクオリティメディカルセンターとして魅力ある病院造りに大きく貢献した。また教育、研究、診療活動、社会貢献などでも高い評価を得ており、この間の業績は多大なものがあり、SS と判定した。</p>		

教員名：老木 成稔	所属：医学部形態機能医科学講座分子生理学	職：教授
<p>イオンチャネル研究において、国際一流誌に多くの業績を残し、科学研究費基盤 A や新学術領域公募研究などの大型予算を獲得している。平成 24 年にはこれらの研究が評価され、科学技術賞「研究部門」で文部科学大臣表彰を受けた。さらに学長賞を受賞するとともに、先端医工連携研究推進特区の研究者にも採択されるなど、研究活動は極めて優秀で、SS と判定した。</p>		

教員名：岡沢 秀彦	所属：高エネルギー医学研究センター	職：教授
<p>PET, MRI 等の生体画像技術を用いて、がん分子イメージングや脳分子イメージングに関するすばらしい業績を残し、科学研究費基盤 A や JST 分子イメージング研究戦略推進プロジェクトなどの大型予算を獲得した。これらの業績と将来性が評価され、先端医工連携研究推進特区の研究者にも採択されるなど、この間の研究活動はきわめて優秀で、SS と判定した。</p>		

教員名：林 寛之	所属：医学部附属病院総合診療部	職：教授
<p>東日本大震災における緊急被爆医療チームの一員として、幾度となく現地において、被爆患者さんの治療に当たり、福島での被爆医療に大きく貢献するとともに、福井大学の評価を上げた功績は大きいものがある。また救急医療、総合医療、緊急被爆医療に精通した専門医、指導医の育成にも尽力して、福井県の緊急被爆医療体制の整備にも貢献した。教育、診療、社会貢献や国際交流活動でも高い評価を得ており、SS と判定した。</p>		

教員名：葛原 正明	所属：大学院工学研究科電気・電子工学専攻	職：教授
<p>教育面において、教育評価に基づく教育努力奨励体制の構築を目的として工学部で設けた年度優秀教員称号を平成 21 年度に授与され、また、海外の教育機関（オーストラリア、スイス、台湾、香港など）から複数回にわたり招聘されている。さらに、工学研究科博士後期課程においては計 7 名（内 3 名は学位取得修了、4 名：在学中、1 名：留学生、3 名：社会人）の学生を指導しており本学の教育活動の円滑な実施に多大なる貢献をしている。</p> <p>研究面では、文部科学省、経済産業省等から総額 3 億円以上の外部資金を獲得し、間接経費（約 4 千万円）の確保に貢献している。さらに、研究に取り組んでいる窒化物半導体分野において極めて優れた成果を上げており、平成 25 年度には応用物理学会から最高会員の称号であるフェローの称号を授与された。また、応用物理学会の欧文誌である JJAP/APEX 編集委員として編集貢献賞を受賞している。その他、社会貢献、国際交流活動、管理運営活動も良好である。</p> <p>以上の理由から SS と判定した。</p>		

教員名：沖 昌也	所属：大学院工学研究科生物応用化学専攻	職：准教授
<p>教育面においては、教育評価に基づく教育努力奨励体制の構築を目的として工学部で設けた年度優秀教員称号を平成 24 年度に授与され、また、工学研究科博士後期課程の学生確保に多大な貢献をしている。研究面においては、学長奨励賞を受賞し、先端医工連携研究推進特区の特区研究者に選ばれている。また、戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけタイプ）に採択され、高額の外部資金を獲得している。社会貢献・国際交流活動、管理運営活動も良好である。</p> <p>以上の理由から SS と判定した。</p>		

教員名：米沢 晋	所属：産学官連携本部	職：本部長・教授
<p>外部資金獲得額が、代表として平成 22～25 年度積算で、共同研究により約 6 千 7 百万円、受託研究により約 2 千万円、奨学寄附金により約 1 千万円と顕著である（研究活動）。</p> <p>ペルー国駐日大使の来学の世話及び同国サンマルコス大学との部局間協定締結、共同研究の推進を行い、かつタイ国タマサート大学東アジア研究所との部局間協定締結、日本人学生の短期（2 週間程度）派遣プログラムの開発、実施を推進した（社会貢献・国際交流）。</p> <p>文部科学省の科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会イノベーション創出機能強化作業部会委員を勤め（平成 25 年度）、国の産学官連携施策作成への貢献を通して本省周辺での本学存在感の顕在化に貢献した。加えて、本学における共同研究活動の活性化をはかり、共同研究費の受入金額合計（全学）において過去最高額を達成（平成 25 年度）するほか、本学産学官連携本部協力会の会員増強に努め、本部長就任前の会員数減少傾向を払拭し増加傾向への転換を実現した（管理運営）。</p> <p>文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「ふくいスマートエネルギーデバイス開発地</p>		

域」における研究統括（平成 23～27 年度）および科学技術推進機構研究成果展開事業 スーパークラスタープログラム（京都コアクラスター）中の福井サテライトクラスターにおける研究統括（平成 25～29 年度）として、産学官連携研究開発活動をリードした（特定活動）。
以上、複数の評価領域において顕著な貢献が認められることから、SS と判定した。

5. S 評価該当教員

教員名	所属	職
浅原 雅浩	教育地域科学部理数教育講座	教授
木村 亮	教育地域科学部社会系教育講座	教授
安倍 博	医学部形態機能医科学講座行動基礎科学	教授
宮本 薫	医学部生命情報医科学講座分子生体情報学	教授
内田 研造	医学部器官制御医学講座整形外科学	准教授
伊藤 秀明	医学部器官制御医学講座泌尿器科学	講師
片山 寛次	医学部附属病院がん診療センター	教授
酒井 明子	医学部看護学科臨床看護学講座災害看護学	教授
鞍谷 文保	大学院工学研究科機械工学専攻	教授
飛田 英孝	大学院工学研究科材料開発工学専攻	教授
古閑 義之	大学院工学研究科物理工学専攻	准教授
飯井 俊行	大学院工学研究科 原子力・エネルギー安全工学専攻	教授
齊藤 輝雄	遠赤外領域開発研究センター	教授
Albert Joseph Lehner Jr.	語学センター	センター長・教授